

日中韓大学生交流事業
TOMODACHI100 プロジェクト

認定 NPO 法人 地球市民の会

事業報告

1. 主催団体

認定 NPO 法人地球市民の会、佐賀県

2. 事業名称

日中大学生招聘事業「TOMODACHI 100 プロジェクト」

3. 事業実施経過

<対 中国>

2012年6月 中国上海へニーズ調査

11月 2度目の上海へ大学・関係団体へ協力依頼（日程の調整・確定・招聘者の検討）

2013年2月 3度目の上海へ（再度事業説明、協力大学選定）

4月 4度目の上海へ（大学生募集開始⇒上海日本語教育研究会を通して募集）

7月 招聘者の確定

8月上旬 来日準備

<対 韓国>

2013年5月 釜山韓日文化交流協会へ協力依頼

6月 釜山で募集開始

7月 参加者決定（釜山では協会による事業説明会）

8月 来日準備

<対 日本>

2012年10月 地球市民の会(以下 TPA)の月例理事会にて概要説明

県へ共催の協力依頼

2013年1月 各受け入れ地区、団体、行政、企業等へ協力依頼

4月 受け入れ地区とのプログラム打ち合わせ、ホストファミリー依頼
プログラム確定、参加者募集チラシ作成

6月 大学へ参加者募集説明

各種手配・調整（バス借り上げ、道具手配等）

福岡・佐賀県内大学へ大学生参加者募集と学生スタッフ依頼

7月 受け入れ地区の方々との打ち合わせ

参加者確定

8月 参加者へプログラム送付

受け入れ地区との最後の打ち合わせ、ホストファミリー説明会

4. 実施内容

中国から日本語を学ぶ大学生を佐賀に迎え、さまざまな文化・経済・学術等の視察や交流及び、ホームステイや同世代の日本人大学生との合宿や人と人の交流を通して相互理解を深め合い、地域活性への促進、及び、パートナーシップの構築を目指す11日間のプログラム。

参加者：日本人大学生10名 中国人大学生8名 韓国人大学生7名

日程：2013年8月21日（水）～31日（土）

スケジュール表：

日程	内容	場所
8月21日（水）	午前：中国人大学生到着（佐賀空港） 午後：佐賀県庁表敬訪問、オリエンテーション	ホテル
8月22日（木）	午前：多久市訪問（保育園交流等） 午後：有田ポーセリングパークへ 武雄市の取り組み講義	ホテル
8月23日（金）	午前：伊万里市アイケイケイ株式会社訪問 午後：ハウステンボス	ホテル
8月24日（土）	午前：佐賀大学オープンカレッジ 午後：ウェルカムパーティー	ホームステイ
8月25日（日）	終日：佐賀市、多久市で学生主導の交流（～28日）	ホームステイ
8月26日（月）	午前：料理づくり 午後：企業訪問	ホームステイ
8月27日（火）	午前：徐福長寿館見学 午後：買い物	ホームステイ
8月28日（水）	午前：文化体験（茶道・華堂・琴） 午後：着付け体験	ホームステイ
8月29日（木）	午後：ワークショップ	北山少年自然の家
8月30日（金）	午後：日本語弁論祭（佐賀大学） さよならパーティー	ホテル
8月31日（土）	帰国（佐賀空港）	

<主な活動詳細>

22日（木）「多久市の青い鳥保育園訪問」

多久市にある保育園での交流。現在、日本人の大人だけに限らず、子どもたちも中国人に対するイメージが悪い子が多い。すべてはマスコミの情報や親の影響が大きいということ

であった。そこで、実際に中国の方との触れ合いを通し、自分たちが感じたことを大事にしてほしいとのことからこの訪問を実施した。



一緒に遊んで、触れて、一緒に食べることでお互いを分かり合える交流になりました

22日（木）「武雄市のICTを活用した地方自治の取り組みについて講義」

全国でも先進的に取り組みを行なっている佐賀県武雄市。武雄市主導での課内にイノシシ課、レモンガラス課を設置したり、TSUTAYAとコラボした図書館など様々な取り組みを行なっている。その中でフェイスブックを活用した市民への情報発信などを行い。全国でも注目をあびている。その武雄市のフェイスブックなどを通しての行政の取り組みを学ぶために訪問した。



中国には SNS によつての行政の取り組みはないが、中国全国的には SNS は人気のツールであるため、参加者は今後中国でも取り組みが広がることを望ましいという意見が多かった。

23日（金）「アイケイ株式会社訪問」

佐賀県で上場している企業として、日本人のおもてなしを学ぶための研修。仕事に対する思いや注意していることなどを体験しながら勉強した。



日本人のお客様に対する心配りや注意することは中国人大学生には大変な驚きであった。説明が終わったあとも質問が途切れることなく続いた。

24日（土）「佐賀大学オープンカレッジ&ウェルカムパーティー」

午前中は、佐賀大学の説明、佐賀大学学生の環境分野での活動発表や男女協働参画の視点での講義が行われた。また、この日からホームステイであるためホストファミリーと一緒にウェルカムパーティーを行った。



佐賀大学の概要を説明。また、学生の活動発表後の質問は「なぜ日本人は環境に対しての意識が高いのか?」「上海でも取り組みたいがどこから取り組めばいいのか?」などの質問がたくさんでした。



ホストファミリーや関係者も参加してのウェルカムパーティーとなりました。

25日（日）～28日（水）「学生主導の交流」



一緒に料理づくりを行いました。

味の素工場見学を行いました



佐賀と繋がりがある徐福について学びました。



初めての日本文化体験

29日（木）ワークショップ（別紙1）

30日（金）日本語弁論&さよならパーティー

21日から参加しての感想や日本や佐賀に対して感じること、日本人のいいところや変なところなどを日本で発表してもらいました。



日本に来てからの日本人の心に非常に感動したというスピーチが多かったです。何より、テレビでのイメージとはいい意味で違うことが多くて驚いたということです。

「本当のことを知るためには実際に交流をすることが一番必要であると感じました。」
コメンテーターからも短期間でここまで日本人のことを見てくれて嬉しいとのコメントもありました。



さよならパーティーでは、これまでの交流をホストファミリーと振り返るだけでなく、お互いに手紙を書いて読み上げるなど、最後は涙・涙の別れになりました。

5. 事業の成果

本事業は、1年以上も前から準備をしてきたことであり、何より、様々な団体や個人の方々にご協力をいただいた結果である。

- ・今回の交流事業により、多くの地域住民の方々や学生に参加してもらい交流ができた。地域住民の方々も交流があることで、参加しやすく中国人との交流を楽しんだ。

- ・日中双方で、両国のイメージが少し変わったという参加者が多かった。

政治や教育の影響もあり、始まる前はお互いに不安な部分もたくさんあったが、ホームステイや学生交流を通し、不安な部分も解消されたと言っていた。また、日本に来たいと思う学生が増え、この事業を多くの人に紹介し、ここから友好を拡げていきたいと思ってもらえたことは大きな成果である。